

教科・領域等 [音楽]

25 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために 単元構想

日本の伝統的な音楽から感じ取っている「自分が考える『日本らしさ』」についての、考えを深める



こんな実践

日本の伝統的な音楽を耳にすると「日本らしい感じ」などといった漠然とした雰囲気しかとらえられない生徒が、「さくらさくら」の前奏を創作する授業を通して、「日本らしさ」の根拠を自分なりに見出しながら、日本の伝統的な音楽についての自分の考えを深めていった実践です。

学校名 I 中学校

実践学年 2 学年

実践時期 10 月中旬

題材名 平調子の音階の特徴を生かして旋律を作ろう～桜咲くマイプレリュード～
学習指導要領との関連：A表現 (3) ア、イ (ア) (イ)、ウ

○ **自分が創ったモチーフをもとに、自分の表したい「さくらさくら」につながる前奏を創作する**

本時は、授業の導入で、「一輪の桜」「咲き誇っている桜」などといった「さくらのイメージ画」を提示し、「さくらさくら」のイメージを膨らませたうえで、自分が創ったモチーフを、自分のイメージに近い音のつながり方を視点に工夫する学習です。



自分の作品作りに没頭する

「風は吹いているが、ゆっくり少しだけ散る桜」をイメージした R 生は、ペアである K 生とともに「ゆっくり落ちてくる感じ」を表すために自分のモチーフを下降旋律に発展させたり、「風が吹いて少し花が揺れている感じ」を表すために、同じモチーフを反復させたりすることを試しながら、自分の表したいことに近い音のつながり方を追究していきました。

授業の終末では、本時の振り返りの際、ペア同士に互いの音楽を聴き合う場面を位置付けた。K 生は R 生の演奏を聴き「ゆったりした日本らしい感じがする。平調子の音でゆったりした感じを表すと日本らしさが出るね」と伝える姿が見られました。



ここがポイント！

- ・音のつながり方を沢山試すことができるように、どのようにしたら自分の表したい感じが表れるのかについて考えることができるように授業を構想することが大切です。

先生は、題材の導入で示された学習問題「自分が感じている「日本らしさ」を深めよう」に対して、各授業の終末で振り返ることができるように題材を構想しました。そのようにして毎時間の学習で日本の伝統的な音楽に対する考えを深めてきた生徒に、題材の終末（第4時）で、題材での活動をもとに「日本らしさ」について自分の考えを説明する場面を位置付けました。そこで生徒は学習カードのように学習をまとめています。

題材の第1時では、昨年度に扱った「六段の調」を再度鑑賞し、昨年の学習内容を想起できるようにして、自分の「日本らしさ」に対する考えを確認しました。そこでは、「日本音楽は和風な感じがする」「暗かったりあまり面白みがなかったりする」といった、日本の伝統的な肯定的ではない考えを持つ生徒が多く見られました。

そのような生徒たちに、日本の伝統的な音楽で用いられていることが多い平調子の音階を用いて、自分がつくったモチーフをもとに創作活動を行えるように題材を構想したことで、自分なりの「日本の伝統的な音楽」に対する考えを深めていく姿が多く見られました。

「日本音楽」について考えたことを自分なりにまとめてみよう

自分はこれまで「日本音楽」は暗かたりあまりおもしろみがないな
 と思っていました。今回等々やってみて、「日本音楽」のおもしろ
 さに気づきました。た、たの五音しかない、平調子の音階でこ
 まで日本らしい音楽をつくりあげることができたのはすごいと
 思いました。旋律も近くの音を拾ってみたり情景イメージから
 旋律をつくらせていくこともできると感じました。改めて今回や
 日本音楽のすばらしさに気づくことができました。最近ではJ-POP
 など日本の古い音楽からは離れつつあると思いますが、どこかの
 かたすみかにこの日本音楽、平調子の音階、五音しかないというこの
 すばらしさを忘れないでほしいと思います。

図1 日本の伝統的な音楽に対する考えを深める



ここがポイント！

- ・ 1時間ごとの学習のつながりの中で、自分が創ったモチーフを工夫したり発展させたりしていくことができるようにすることが大切です。
- ・ 1時間ごとに、学習問題に触れた「自分の日本らしさ」に触れて振り返ることができる発問を用意することが大切です。

まとめ

- ・ 創作表現の創意工夫を通して自分の考えを更新できるように題材を構想したことで、自分のモチーフを表したい雰囲気に合わせて創作する力や、表したい雰囲気が表現できる音のつながり方、反復変化などの構成上の知識を得ることにつながりました。